

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 利用者氏名：S・M様（女性・100代） 要介護5
利用期間：平成29年12月下旬～現在に至る
病名：うっ血性心不全、心房細動、重症大動脈弁狭窄症
入所までの経緯：ご自宅での介護力不足によるレスパイト

内 容

入所時のS様は年齢が100代でありながら「出来る事は何でも一人でやる」が口癖で、いつも笑顔絶やさず、ご家族や他のご利用者さんといつもフロアで談笑されていました。

ご家族もS様をととても大事にされていて、面会の回数も多く、S様はご親戚一同が集まるお正月とお盆にご自宅に帰る事を非常に楽しみにされていました。

しかし、お盆の一時帰宅の際に自宅で転倒し施設に戻ってきましたが、身体中の痛みからベッド上で動くこともできず、日常生活すべての面で介助が必要になると、雄弁だったS様が口を閉ざし、「こんなに辛い思いするなら早く死にたい」と言われるほど気持ちは落ち込んでいきました。

お食事拒否され、衰弱の為にターミナルケアへ移行する事となりましたが、ご家族、ケアスタッフが毎日励ます言葉を通じ、3ヶ月かけ以前のように自立で食事を召し上がるまで取り戻す事ができました。ターミナルは脱しましたがベッドで寝たきりの生活は続いており、ベッドから動けないS様には傾聴が最も重要と考え時間を見つけては傾聴を続けていきました。

ご本人の要望などを聞いても初めは「特になし、皆に迷惑をかけてしまう」と返答しかありませんでしたが、傾聴を続けていくうちに「本当は一度帰りたかったの、周りに迷惑かけたくなくて言えなかったの」と打ち明けて頂きました。

現在の年齢と身体状況から最悪の事態も考えられましたが、S様の思いを叶えたいとご家族も快く承諾され、施設長を始めユニットスタッフやケアマネジャーで打合せや準備を行い、一時帰宅が実現できる事となりました。

ご自宅には息子様夫婦やお孫様夫婦、仲の良かった近隣の方がお出迎えされ、その方々と元気な頃のように笑顔で談笑され「転んで施設に戻った時には、ベッド上で生活する事になり二度と家には帰れないと思っていた」と涙ぐまれる様子も見られました。帰りのお見送りの際に息子様より「本当にありがとうございました」と深く頭を下げられ、車内ではS様から「色々ご苦労様だったね、本当にありがとう」とのお言葉だったので、息子様からも同じ事を言われた事をお伝えすると、「あたしの息子だもの」と今まで見る事の無かったS様の最高の笑顔を見ることができました。

その後もS様は「また家に帰りたい、具合悪くなってられないね」とお元気で過ごされています。今後ご利用者の輝きの一日を提供できるようにチーム一丸でチャレンジしていきたいと思えます。